

《研究ノート》

性的被害の届け出に関する大学生の意識

辰 野 文 理

1 はじめに

強制わいせつや痴漢といった性的被害の届け出は、「恥ずかしい」、「怖い」といった種々の理由から届け出がためられる場合が多く、警察に届けられる被害は、被害実態の十分の一程度とされている⁽¹⁾。警察では、女性相談員を配置したり、痴漢防止のキャンペーンを行ったりして、被害の防止と被害の届け出を促進する活動を進めてきている。

一方、2000年頃から、各都道府県の迷惑防止条例が改正され、痴漢に関する罰則も強化されている⁽²⁾。また、物理的な防止策として、鉄道会社においては女性専用車両も登場している⁽³⁾。

こうした痴漢に対する対策や取り締まりの強化が進む中で、人々はどのような意識や態度を示しているのだろうか。

痴漢などの性的被害に関する女性の意識調査として、鈴木が1997年に行った調査研究がある（鈴木、2001）。この調査は、1997年に愛知県内の18歳から29歳までの女性600人を対象に質問紙によって行われたものであり、主な調査項目は、痴漢被害の状況、被害にあった場合の届け出、被害防止策などである。調査では、「被害の届け出に要する時間の見込み」と「届け出のときに割いてもよい時間」との差異が確認され、届け出ることの意味や効果を広報する必要性が提言されている。それでは、近年の状況はどうだろうか。被害の届け出に関して人々は理解を深めているだろうか。

そこで本研究では、鈴木が1997年に行った調査を参考に同様の調査を行

い、結果を比較検討するとともに、社会状況の変化との関連等について考察を行っていく。まず、本稿においては、調査結果の概要を報告し、今後の比較研究の資料としたい。

2 調査について

本研究では、以下の方法により大学生を対象に質問紙による調査を行っている。

1 調査の目的

大学生を対象に、痴漢などの性的犯罪に関する意識や届け出に対する意識などを明らかにし、性的被害の届け出を促進するための方策等を立てる際の資料を得ることを目的としている。

2 調査の方法

(1) 調査対象者

都内及び茨城県内の大学生。有効回答者数は、男性111人、女性172人、計283人であり、年齢は18歳から23歳であった。

(2) 調査方法及び調査の実施時期

調査方法は集合調査である。調査の実施時期は2003年5月中である。

3 調査の結果

ここでは、調査結果のうち、一般に被害がどの程度発生していると認識しているか、その被害がどの程度届けられていると認識しているか、さらに届け出に要する時間の推定などについての結果を見ていく。

1 被害状況及び届け出状況に関する認知

（１）被害割合の推定

まず、痴漢被害に関する認知度を聞いた。設問は、「一般的にみて、若い女性のうち、どれくらいの割合の人が、痴漢の被害を受けたことがあると思いますか。」というものである。この設問を、①電車等の交通機関の中での被害と、②夜道等での被害に分けて尋ねている。表１、２は、この結果を男女別年齢別に見たものである。

① 電車等の交通機関の中での被害経験者の割合の推定

電車等の交通機関の中での被害経験者の割合についての推定結果を見ると、最も多いのが男女とも「３～４割」であり、次が「半数（５割）ぐらい」である。男性の合計と女性の合計を比較すると、男性の方が「全く見当がつかない」とする割合が高いものの、大きな違いは見られない。

② 夜道等での被害経験者の割合の推定

夜道等での被害経験者の割合についての推定結果を見ると、最も多いのが男性では「１～２割」であるのに対し、女性では「１～２割」と「３～４割」が多く、女性の方が多めに推定している。

表１ 痴漢被害経験者の割合の推定（電車等の交通機関の中での被害）（％）

(実数)人	男性				女性				全体 (283)
	18歳 (38)	19歳 (24)	20歳以上 (49)	合計 (111)	18歳 (59)	19歳 (49)	20歳以上 (64)	合計 (172)	
ほとんどいない	5.6		2.0	2.8			6.3	2.3	2.5
１～２割	8.3	20.8	24.5	18.3	15.3	12.2	10.9	12.8	14.9
３～４割	30.6	37.5	24.5	29.4	39.0	38.8	34.4	37.2	34.2
半数(5割)ぐらい	16.7	20.8	24.5	21.1	23.7	18.4	23.4	22.1	21.7
６～７割	22.2	8.3	14.3	15.6	16.9	20.4	15.6	17.4	16.7
８～９割	2.8	4.2	4.1	3.7	1.7	8.2	7.8	5.8	5.0
ほとんど全員	5.6		2.0	2.8		2.0	1.6	1.2	1.8
全く見当がつかない	8.3	8.3	4.1	6.4	3.4			1.2	3.2
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表２ 痴漢被害経験者の割合の推定（夜道等での被害）（％）

(実数)人	男性				女性				全体 (283)
	18歳 (38)	19歳 (24)	20歳以上 (49)	合計 (111)	18歳 (59)	19歳 (49)	20歳以上 (64)	合計 (172)	
ほとんどいない	8.3	12.5	6.1	8.3	1.7	2.0	3.1	2.3	4.6
１～２割	38.9	37.5	53.1	45.0	33.9	40.8	43.8	39.5	41.6
３～４割	27.8	29.2	20.4	24.8	40.7	42.9	35.9	39.5	33.8
半数(5割)ぐらい	5.6	8.3	8.2	7.3	10.2	8.2	10.9	9.9	8.9
６～７割	2.8		6.1	3.7	8.5	4.1	4.7	5.8	5.0
８～９割	2.8	4.2	2.0	2.8	1.7	2.0	1.6	1.7	2.1
ほとんど全員	2.8			0.9					0.4
全く見当がつかない	11.1	8.3	4.1	7.3	3.4			1.2	3.6
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

男女ともに、夜道等での被害より電車等の交通機関の中での被害を多めに推定している。

(2) 被害の届け出について

ア) 被害の届け出の割合

次に、どれくらいの人が被害を届け出ているかについての推定結果を見る。設問は「電車や夜道等で痴漢の被害にあった若い女性のうち、どれくらいの割合の人が警察等に届け出ているだろうと思いますか。」である。

① 電車等の交通機関の中での被害経験者の割合の推定

表3は、電車等の交通機関の中での被害届け出の割合についての推定結果である。最も多いのが男女とも「1～2割」であり、「ほとんどいない」と合わせると7割となる。とくに女性では、4分の3の人が、被害にあった人の多くが届けていないのではないかと推定している。

② 夜道等での被害経験者の割合の推定

表4は、夜道等での被害経験者の届け出に関する推定結果である。男性

表3 被害届け出の推定（電車等の交通機関の中での被害）（％）

(実数)人	男性				女性				全体 (281)
	18歳 (36)	19歳 (24)	20歳以上 (49)	合計 (109)	18歳 (59)	19歳 (49)	20歳以上 (64)	合計 (172)	
ほとんどいない	22.2	29.2	28.6	26.6	32.2	22.4	29.7	28.5	27.8
1～2割	50.0	41.7	36.7	42.2	33.9	51.0	51.6	45.3	44.1
3～4割	16.7	8.3	20.4	16.5	23.7	14.3	9.4	15.7	16.0
半数(5割)ぐらい	5.6	12.5	8.2	8.3	6.8	8.2	7.8	7.6	7.8
6～7割	2.8	4.2		1.8	1.7	2.0		1.2	1.4
8～9割						2.0		0.6	0.4
ほとんど全員			2.0	0.9	1.7		1.6	1.2	1.1
全く見当がつかない	2.8	4.2	4.1	3.7					1.4
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表4 被害届け出の推定（夜道等での被害）（％）

(実数)人	男性				女性				全体 (281)
	18歳 (36)	19歳 (24)	20歳以上 (49)	合計 (109)	18歳 (59)	19歳 (49)	20歳以上 (64)	合計 (172)	
ほとんどいない	38.9	37.5	34.7	36.7	25.4	18.4	34.4	26.7	30.6
1～2割	27.8	20.8	36.7	30.3	45.8	42.9	45.3	44.8	39.1
3～4割	16.7		8.2	9.2	11.9	18.4	9.4	12.8	11.4
半数(5割)ぐらい	2.8	16.7	6.1	7.3	10.2	10.2	3.1	7.6	7.5
6～7割	8.3	16.7	4.1	8.3	3.4	8.2	3.1	4.7	6.0
8～9割			4.1	1.8			3.1	1.2	1.4
ほとんど全員		4.2	2.0	1.8	3.4	2.0	1.6	2.3	2.1
全く見当がつかない	5.6	4.2	4.1	4.6					1.8
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

* 無回答を除く。

では「ほとんどいない」が最も多く、次いで「1～2割」であるのに対し、女性では「1～2割」が最も多く45%である。

男女ともに、8割の人が届け出をする人の割合を4割以下と推定しており、被害にあった人のうち届け出る人の方が少ないと認識していると言える。

また、男性の方が、夜道等での被害の方が電車等の交通機関の中での被害より届け出る人の割合を少なめに推定している。夜道等での被害の方が届け出をしにくいと認識しているのかもしれない。

イ) 被害の届け出に対する意識

表5は、「あなたは、一般的にいて、痴漢の被害にあった場合、できることなら駅員や警察などに届け出た方がいいと思いますか。」との設問に対する回答結果である。男性では、78.3%、女性では72.1%が届け出た方がよいと回答している。女性の場合は「まったくそう思う」との回答が男性よりも少ない。

表5 被害を届け出ることの必要性

	男性	女性	全体
(実数)人	(111)	(172)	(283)
まったくそう思う	43.2	26.2	32.9
かなりそう思う	35.1	45.9	41.7
あまりそう思わない	7.2	16.3	12.7
まったくそう思わない	—	—	—
なんともいえない	14.4	11.6	12.7

ウ) 被害を届け出ない理由

表6は、被害を届け出ない理由をどのように推測しているかについて尋ねた結果を見たものである。男性では、「家族等、周りの人に知られたくないから」、「仕返しされるのが怖いから」、「誰がやったかはっきりしな

表6 被害を届け出ない理由（主なもの3つまで）

	男性 (実数)人 (99)	女性 (155)	全体 (254)
家族等、周りの人に知られたくないから	56.6	39.4	46.1
仕返しされるのがこわいから	44.4	32.9	37.4
誰がやったかはっきりしないから	34.3	36.8	35.8
届け出ても意味や効果がないから	26.3	41.3	35.4
届け出るのが面倒だから	28.3	27.7	28.0
がまんすればすむことだから	26.3	27.1	26.8
警察はまともに取り合ってくれないだろうから	22.2	29.0	26.4
大した被害ではないから	16.2	21.3	19.3
周りの人(乗客等)の協力が得られないから	10.1	14.2	12.6
警察と関わりになりたくないから	12.1	10.3	11.0
届け出る人は少ないから	9.1	6.5	7.5
届け出る時間的余裕がないから	7.1	7.1	7.1
自分にも落ち度があるから	4.0	2.6	3.1
その他	0.0	0.6	0.4

*無回答を除く。

いから」などの回答が多い。これに対し、女性では、「届け出ても意味や効果がないから」、「家族等、周りの人に知られたくないから」、「誰がやったかはっきりしないから」などの回答が多い。届け出ても意味や効果がないから届け出ないのではないかと、思っている女性が多いことは実際の被害が発生した際に届け出がなされない理由となるであろう。重要な課題である。

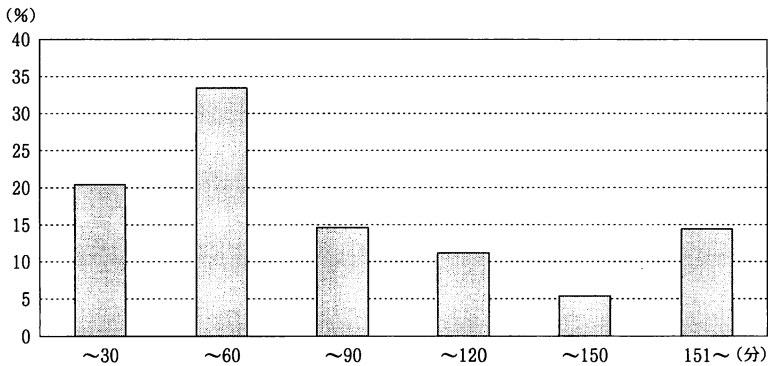
その一方で、「届け出る時間的余裕がないから」との回答は少なく、その時間的負担は届け出ないことの大きな理由とは考えられていない。

2 被害の届け出に対する意識

(1) 届け出に要する時間的負担の推定

次に、痴漢被害を届け出た場合に、そのためにどれくらいの時間がかかる

図1 届け出に要する時間（分）



* 女性のうち時間の記入があった116人の回答である。

とみているのかを尋ねた。図1は、女性に対して、「あなたは、痴漢の被害にあって、駅員などに届け出た場合、そのためにどれくらいの時間がかかると感じますか。」との設問に対する回答結果である。31分～60分との回答がもっとも多く33.6%、次いで30分以内が20.7%である。一方、150分を超えるのではないかと回答も14.7%見られる。もっとも長い回答で720分（12時間）との回答が見られた。平均値は、95.8分（標準偏差98.4）である。

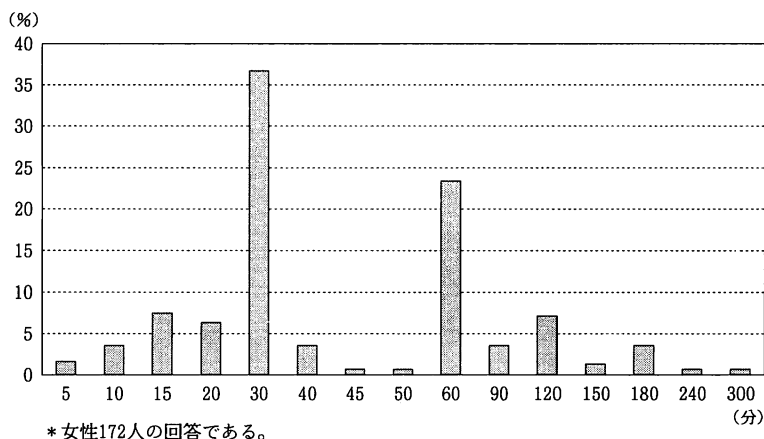
鈴木（2001）の調査では、48.1分（18～21歳の平均値）との結果が報告されている。

なお、「まったく見当がつかない」と回答が55人（女性の32.0%）あった。

（2）届け出に割ける時間的負担

では、痴漢被害を届け出た場合に、そのためにどれくらいの時間を使ってもよいと考えているのであろうか。図2は、女性に対して、「あなたは、痴漢の被害にあって、駅員などに届け出るとして、どれくらいの時間なら、そのために使ってもいいと感じますか。特に急いでない場合として教えてください。」との設問に対する回答結果である。30分との回答がもっとも

図2 届け出に使ってもよい時間（分）



多く36.6%、次いで60分が23.3%である。平均値は、52.4分（標準偏差45.8）であるが、半数以上（55.8%）が30分以内と回答している。

鈴木（2001）の調査では、35.8分（18～21歳の平均値）との結果が報告されている。

「届け出に要する時間」と「届け出に使ってもよい時間」との関連をみると、相関係数は0.32であり有意ではあるものの、強い相関は見られない。「届け出に要する時間」の平均値と「届け出に使ってもよい時間」の平均値の差は、95.8分—52.4分と約43分あり、大きな差がある。鈴木（2001）の調査では、その差が約20分（18～29歳）であると報告されている。

なお、「届け出に要する時間」が「まったく見当がつかない」と回答した女性の場合は、「届け出に使ってもよい」時間の平均値は、50.9分（標準偏差47.9）である。

4 まとめと考察

以上の結果から次のように要約できる。

（１）被害状況の推定と被害の届け出について

電車等の交通機関の中での被害においては３～４割、夜道等での被害に関しては１～２割程度の人が被害に遭っていると推測している人が多い。

こうした被害に関してどの程度の人が届け出ているかについては、電車等の交通機関の中での被害については多くの人が２割以下と推定し、夜道等での被害に関しては１～２割程度の人が届け出ていると推測している人が多い。

その一方で、届け出の必要性については、74.6％の人が必要と答えており、届け出は必要であるが、実際にはあまり届け出られていないのではないかと認識している人が多い。

その理由として、男性は、「家族等、周りの人に知られたくないから」、「仕返しされるのがこわいから」、「誰がやったかはっきりしないから」などを挙げ、女性は、「届け出ても意味や効果がないから」、「家族等、周りの人に知られたくないから」、「誰がやったかはっきりしないから」などを挙げている。

届け出を促すためには、家族や周辺の人に知られないよう配慮するとともに、実際には配慮がなされていることを認識してもらう働きかけが必要であろう。

（２）届け出に要する時間的負担について

被害を届け出ることによって要する時間は平均で１時間半程度と認識されている。一方、そこに割いてもよい時間として平均52分程度との回答が得られた。

被害を届け出ないことの理由として「届け出る時間的余裕がないから」との回答は少ない。しかし、届け出に要する時間とそこに割いてもよいとする時間には平均値で40分ほどの差があり、時間的な負担を考えると届け出をやめる場合もあり得るのではないと思われる。さらに、実際に被害届を出した場合は、被疑者が特定されていない場合でも、被害状況の説明や被疑者に関する情報の説明など、通常さらに多くの時間が必要と考えられ

る。

届け出たもののその後の事情聴取などに要する時間が負担となり、届け出たことを後悔することになるおそれもある。届け出があった場合にあらかじめどの程度の時間を要するのかを説明したり、事情聴取においても届け出た被害者の事情を可能な限り優先するといった配慮が求められる。

（３）1997年時調査との比較について

1997に行われた鈴木氏の調査と一部の数値について比較を行った。被害を届け出ることによって要すると思われる時間の平均値は、48.1分から95.8分と今回の調査の方が倍に延びている。また、そこに割いてもよい時間に関しても、35.8分が52.4分と今回の方が長くなっている。届け出に要する時間的負担とそこに割いてもよいとする時間がともに長くなっていることから、性的被害を届け出た場合は、事情聴取等に時間を要するものであるとの認識が広がったものと考えられる。今後、他の調査項目についても比較検討を進め、社会状況の変化との関連についても明らかにしていく予定である。

注

- （１） 法務総合研究所が1999年に行った犯罪被害実態調査によると、性的暴行における警察への申告率は9.7％と報告されている（法務総合研究所研究部報告10、2000）。
- （２） 東京都では、2001年9月に迷惑防止条例が改正され、初犯でも6月以下の懲役が、常習の場合は1年以下の懲役が規定された。
- （３） 京王線では2000年3月より深夜時間帯における急行・快速列車に女性専用車両（最後部1両）を設けている。また、02年10月より、国のモデル事業として阪急電鉄と京阪電鉄に女性専用車両が導入されている。

参考文献

- 鈴木眞悟（2000）「若年女性における痴漢被害の実態」科学警察研究所報告防犯少年編40-2、42-50
- （2001）「性的被害に対する若年女性の態度」科学警察研究所報告防犯少年編41-1・2、67-78